

美幌町における地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業 2年目）

美幌町地域公共交通総合連携計画の目標

- ・お年寄りにやさしく平等で持続可能な郊外公共交通体系の構築。
- ・身近にスポーツ、レクリエーションを楽しむことができる新たな公共交通の確保。
- ・市街地全体への気軽で身近なバス輸送サービスの提供。
- ・中心市街地の活性化に寄与していく交通結節点機能の確保。
- ・公共交通情報等提供による利便性向上と利用増進。

美幌町地域公共交通活性化協議会開催状況

8月6日 第1回協議会を開催

- ・前年度決算、今年度予算の承認について。
- ・実証運行内容の協議、同意について。
- ・今後のスケジュールについて。

22年度総合事業計画の概要

1)古梅線増便による実証運行

- ・月曜日から金曜日まで、午後に一便を増便し、6ヶ月程度の実証運行を行う。
- ・1路線（夏期往復45.5km、冬期往復40.6km）
- ・運賃：150円～860円

2)美幌循環線路線変更による実証運行

- ・一部区域を拡大した実証運行を行う。
- ・2路線の設定とする。
 - 野崎を経由する路線（15.5km）
 - 野崎を経由しない路線（12.5km）
- ・運行回数
 - 平日：左右回り各7便、土曜：左右回り各3便
- ・運賃：1乗車100円

22年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

< 古梅線増便 >

朝夕各1便の民間バスが運行し、更にスクールバス、福祉バス(月に3回2往復)が運行していた。

・民間バスを活用して、スクールバスと福祉バスの機能を併せ持つバスとして運行出来ないか検討。

・スクールバス、福祉バスのように、利用者の自宅近くまで運行出来る路線を設定した。

朝は国道のみ運行のため、乗合タクシーにより午前中の利用者を確保した。

< 美幌循環線 >

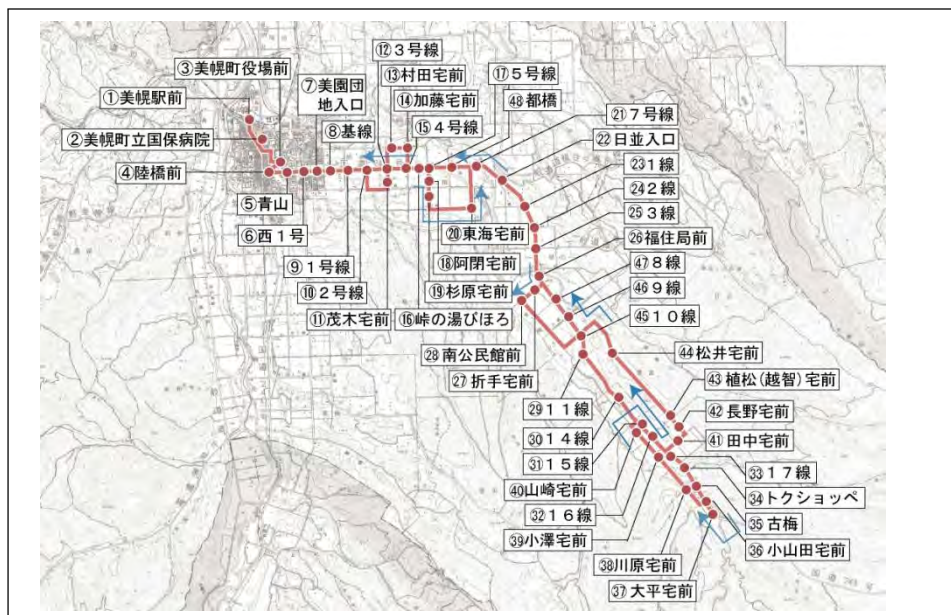
・運行地域拡大の要望に対し、昨年の実証運行結果で、他のバスが運行し循環線の利用者も少ない地域では、今年の実証運行を取りやめた。

・昨年は区域拡大による乗車時間の増加を軽減するため、2路線の乗換方式としたが、高齢者から分かりづらい、誤って乗車するなど、苦情が多かったため今回は乗換をしない運行とした。

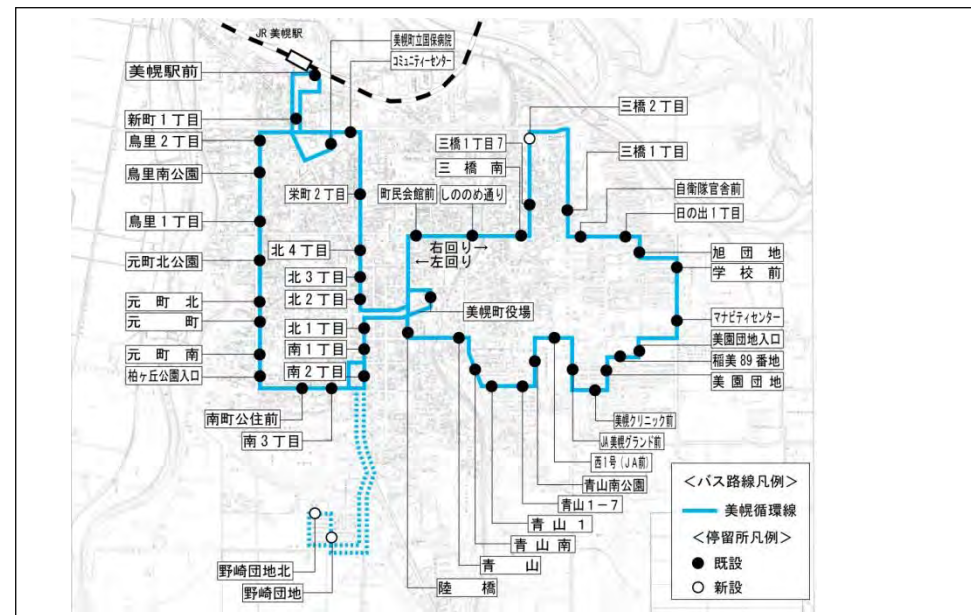
・区域拡大によるコスト削減のため、平日の左右回りを各8便から7便へ減、更に拡大区域の便数を調整し、左右回り平日各7便のうち各3便、土曜各3便のうち各2便の運行とした。

2) 運行ルート

< 古梅線 >

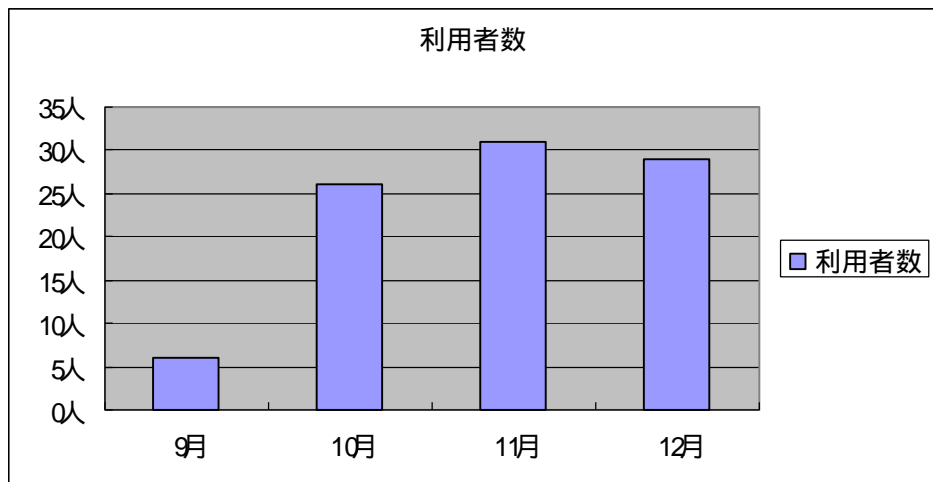


< 美幌循環線 >



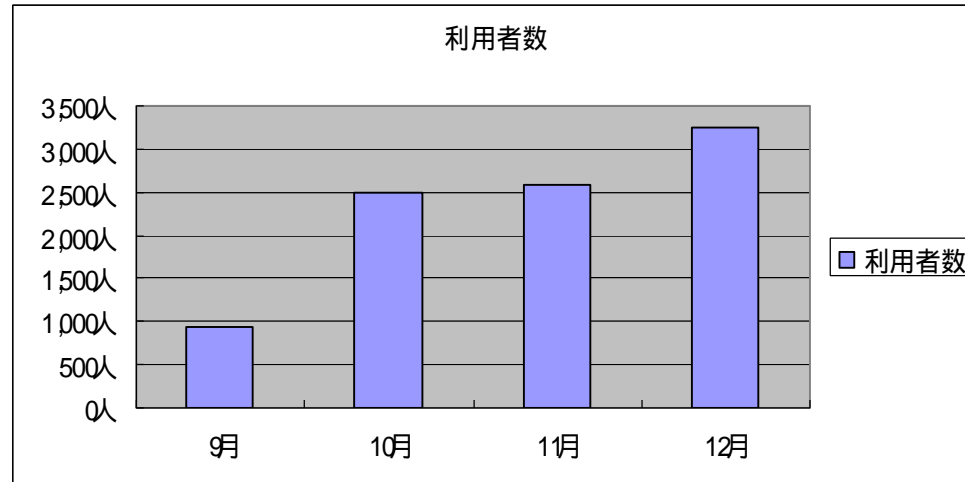
3) 利用実績

< 古梅線 >



月別	9月	10月	11月	12月
利用者数	6人	26人	31人	29人

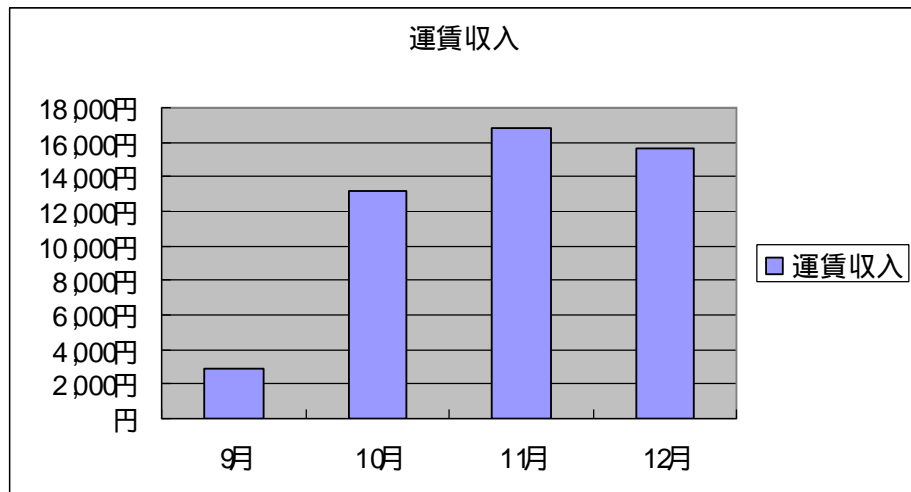
< 美幌循環線 >



月別	9月	10月	11月	12月
利用者数	938人	2,487人	2,584人	3,245人

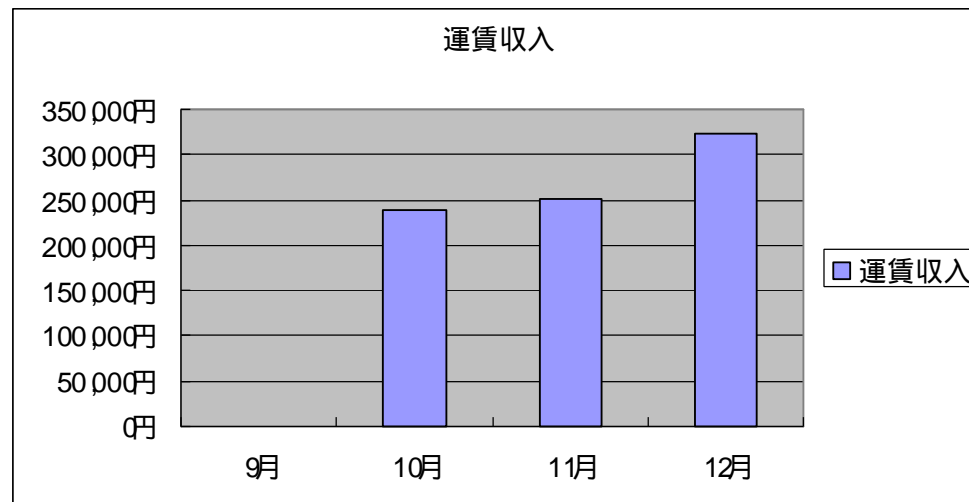
4) 収入実績

< 古梅線 >



月別	9月	10月	11月	12月
運賃収入	2,890円	13,130円	16,870円	15,600円

< 美幌循環線 >



月別	9月	10月	11月	12月
運賃収入	0円	239,050円	252,000円	322,730円

5)事業実施効果

< 古梅線 >

- ・ スクールバス及び福祉バスを運行しないで、民間バスで一定の役割を担うことが出来た。
- ・ 一便増便することで、峠の湯へのアクセス利用が可能となった。
- ・ 乗合タクシーを午前中運行したことで、2便の利用者が増加した。

< 美幌循環線 >

- ・ 今年度の実証運行は、1路線として運行したため利用者からの苦情が少なく、運行方法等に一定の理解がされたと思われる。
- ・ 拡大した野崎地区での利用が予想以上であった。
- ・ 全体の便数は減少したが、利用者は前年と同程度以上となった。
- ・ 区域を拡大したことで、広範囲の住民に利用された。

6)今後の課題

< 古梅線 >

- ・ スクールバス、福祉バスを兼ねた運行となるため、運行距離、時間が長くなったとの利用者の意見がある。
- ・ 冬期間は除雪の関係もあり、夏場と一部路線変更をしている。
- ・ 民間バスのため、町営バスと比較すると運賃が高く、この形態を続けるには、利用者への町の助成が必要と思われる。

< 美幌循環線 >

- ・ 平成23年度から町内の高校が統合され、循環線の運行区域外となるため、循環線を高校まで運行することが可能か検討を要する。
- ・ 区域拡大をした路線とすることで、運行距離が長くなりコスト増となるが、利用者増により採算がとれる路線となる必要がある。

自己評価のポイント

・ 昨年までの乗継ぎを前提とした市内循環線2系統を、今年度は1系統に統合したことにより、分かりやすさや利便性が向上した。

・ 統合により運行エリアを拡大したことから運行系統キロが長くなってしまい、これが本格運行時の採算面での不安要素である。

・ 古梅線は路線変更や乗合タクシーとの相乗効果があり利用が増加した。

二次評価のポイント

・ 自己評価のとおり。

・ 更なる路線の検討を行い、利用者利便と採算性の向上に期待する。